

第2回業務管理委員会 議事要旨

日時：2026 年 7 月 23 日（木）13:30～13:50

場所：厚生労働省 15 階 人材開発統括官室
（オンライン併用）

1 議 事

（1）令和 7 年度決算について

資料 1 に基づき、一般財団法人 2028 年技能五輪国際大会日本組織委員会（以下、「組織委員会」という。）における令和 7 年度の執行状況を確認した。

<資料 1 の説明概要>

- ・ 令和 7 年度の執行状況について、「競技等実施に向けた着実な準備の推進」として、競技計画、宿泊・輸送計画など大会実施に向けた個別計画の策定などを実施。予算と決算の主な差額理由は、個別計画策定事業委託時の入札による残や委員旅費の減。
- ・ 「ワールドスキルズ・インターナショナル（WSI）等との調整」として、大会拠出金の支払いの他、WSI との計画会議の開催や上海大会 CPW への参加など実施。主な差額理由は、WSI との打ち合わせに係る招聘人数が減ったことに伴う招聘費用や会議室使用料の減。
- ・ 「マーケティング活動の推進」として、協賛制度の設計や協賛・寄付獲得戦略の検討を実施。
- ・ 「広報活動」として、広報計画の策定や組織委員会ホームページの作成を実施。主な差額理由は、入札による残や、積算時に想定していた大会公式ホームページはブランドブック作成後にそれを踏まえて開設す

る必要があったことから、組織委員会のホームページのみ開設したことによるホームページ作成費の減。

- ・ 「法人運営、事務局体制の整備」は、事務所の賃貸借や民間企業からの職員派遣に対する負担金の支払や、理事会・評議員会の開催などに係る業務管理費で、主な差額理由は、予算積算時の想定と法人設立後の実際の職員配置状況が乖離していたことや、人員の適正配置を行ったことによる経費の減。
- ・ 令和7年度における全体の予算執行率は約60%で、差額は、国からの補助金は返還し、愛知県からの負担金は繰越対応とする。
- ・ 差額が生じた総括的な理由は、予算積算時には法人設立前だったこともあり、大会開催に向けて必要となる業務内容等が具体的に想定できていなかったことがあげられる。

(2) 令和9年度概算要求について

資料2に基づき、組織委員会の令和9年度概算要求の方向性や積算の内訳について確認した。

＜資料2の説明概要＞

- ・ 令和9年度予算は、2028年技能五輪国際大会開催基本計画に定める財政計画における大会全体収支計画額である219億円及び組織委員会における令和7年度決算結果等を踏まえつつ、真に必要な事務・業務を精査の上で、個別事業ごとに要する経費を積算する。
- ・ 令和9年度の予算額は約35億円であり、厚生労働省と愛知県は、予算要求への計上を検討する。
- ・ 厚生労働省と愛知県の経費負担は、当該年度の組織委員会の自前収入を控除した残余について原則として1/2ずつとし、予算要求への計

上を検討する。

2 意見交換

<議題1に関する意見交換>

- ・ 愛知県より、令和7年度決算については、必要なものを精査した上での結果だと思うが、引き続き適正な執行をしていただきたいと意見あり。
- ・ 厚生労働省より、令和7年度に実施すべき業務で先送りしたものはないかという質問があり、組織委員会から令和7年度に対応すべき事業で先送りしたものはないと回答あり。

<議題2に関する意見交換>

- ・ 厚生労働省より、令和7年度の執行状況を踏まえ、また、令和9年度予算要求にあたり、令和8年度における執行管理の仕組み・取組について質問があり、組織委員会より財務部門で執行管理表による実施事業の把握及び予算の執行管理を行っているほか、組織委員会内の月1回の定例会議において全体の進捗管理を行っているという回答あり。

<その他>

- ・ 厚生労働省より、今年度の予算の執行状況について質問があり、組織委員会より、概ね計画どおりで順調であると回答あり。